

Ⅲ. 食品健康影響評価

参照に挙げた資料を用いて、農薬「MITC」の食品健康影響評価を実施した。第3版の改訂に当たっては、厚生労働省から、皮膚に対する刺激性試験（ウサギ）の成績等が新たに提出された。

^{14}C で標識した MITC のラットを用いた動物体内運命試験の結果、経口投与後の吸収率は少なくとも 77.0% と考えられた。放射能分布はほとんどの組織で血漿より高く、高い組織親和性が認められた。体内からの消失は、血球、肝臓、腎臓、脳、脂肪組織等で緩慢であった。投与された放射能は主に尿中に排泄された。投与後 24 時間で呼気中へ 6.18% TAR の排泄が認められたほか、胆汁への排泄（10.6% TAR）も認められた。主な代謝物として、尿中では MITC のメルカプツール酸（M03）、胆汁中では MITC のグルタチオン抱合体（M01）及びシステイン抱合体（M02）が認められた。呼気中放射能は主に $^{14}\text{CO}_2$ であった。

^{14}C で標識した MITC の植物体内運命試験の結果、くん蒸土壤中放射能はガス抜き直後で大部分が土壌有機画分への結合残留物であり、播種又は植付け後には無機化及び $^{14}\text{CO}_2$ の生成が進行し、未変化の MITC は認められなかった。揮発性物質の吸収（同化）が植物における主な吸収経路であり、土壌くん蒸後に生成した $^{14}\text{CO}_2$ が植物体内放射能の重要な供給源であると考えられた。*In vitro* 代謝試験では、代謝物 M01 及び M02 が 11.5% TRR～23.5% TRR と認められた。

MITC を分析対象化合物とした作物残留試験の結果、MITC の最大残留値はやまのいも（塊茎）の 0.062 mg/kg であった。

各種毒性試験結果から、MITC 投与による影響は、主に体重（増加抑制）、肝臓（重量増加、肝細胞脂肪変性等）及び前胃（肥厚等）に認められた。神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体にとって問題となる遺伝毒性は認められなかった。

各試験における無毒性量等は表 40 に、単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響等は表 41 に示されている。

3 世代繁殖試験（ラット）において親動物の雌雄で無毒性量が設定できなかったが、より低用量で実施された 2 世代繁殖試験（ラット）において、無毒性量が得られている。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、イヌを用いた 90 日間亜急性毒性試験及び 1 年間慢性毒性試験の 0.4 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.004 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量（ADI）と設定した。

MITC の単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量のうち最小値は、マウス及びウサギを用いた一般薬理試験の 10 mg/kg 体重であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.1 mg/kg 体重を急性参照用量（ARfD）と設定した。

なお、ばく露評価対象物質については総合評価において設定した。

ADI	0.004 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料①)	亜急性毒性試験
(動物種)	イヌ
(期間)	90 日間
(投与方法)	強制経口投与
(無毒性量)	0.4 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料②)	慢性毒性試験
(動物種)	イヌ
(期間)	1 年間
(投与方法)	強制経口投与
(無毒性量)	0.4 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100
ARfD	0.1 mg/kg 体重
(ARfD 設定根拠資料)	一般薬理試験
(動物種)	マウス及びウサギ
(期間)	単回
(投与方法)	強制経口投与
(無毒性量)	10 mg/kg 体重
(安全係数)	100

表 40 各試験における無毒性量等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) ¹⁾			
			豪州	EU	食品安全委員会	参考 (農薬抄録)
ラット	90 日間 亜急性 毒性試験 ①	0、2、10、40	NOEL：- 卵巣重量増加		雌雄：2 雌雄：前胃肥厚等	雌雄：2 雌雄：肝小円形細胞 浸潤等
	90 日間 亜急性 毒性試験 ②	0、5、10、20	-：詳細不明		雌雄：10 雄：WBC 及び Neu 増加等 雌：肝うっ血	雌雄：10 雄：肝脂肪変性等 雌：肝うっ血
	90 日間 亜急性 神経毒性 試験	0、2、8、32			雌雄：2 雌雄：前胃粘膜の肥 厚等 (亜急性神経毒性は認 められない)	雌雄：2 雌雄：前胃粘膜の肥 厚等 (亜急性神経毒性は認 められない)
	2 年間 慢性毒性/ 発がん性 併合試験	0、2、10、50 ppm 雄：0、0.104、 0.514、2.33 雌：0、0.149、 0.746、3.43	NOEL：0.47 体重増加抑制、摂餌 量及び飲水量減少	0.44 WBC パラメータの 変動等	雄：0.514 雌：3.43 雄：体重増加抑制 雌：毒性所見なし	雄：0.514 雌：0.746 雄：体重増加抑制等 雌：飲水量減少
	3 世代 繁殖試験	0、1、3、10	NOEL：- 前胃の棘細胞症及び 過角化症		親動物 雌雄：- 児動物 雌雄：10 親動物	親動物 雌雄：- 児動物 雌雄：10 親動物

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) ¹⁾		
			豪州	EU	食品安全委員会 参考 (農薬抄録)
2 世代 繁殖試験			(繁殖能に対する影響は認められない)		雌雄：前胃の棘細胞症及び過角化症 児動物 雌雄：毒性所見なし
		0、2、10、50 ppm P 雄：0、0.16、0.76、3.58 P 雌：0、0.21、1.01、4.76 F ₁ 雄：0、0.15、0.71、3.40 F ₁ 雌：0、0.19、0.87、4.22		親動物 0.7 児動物 3.6 親動物 体重増加抑制 児動物 毒性所見なし (繁殖能に対する影響は認められない)	親動物 P 雄：0.76 P 雌：1.01 F ₁ 雄：0.71 F ₁ 雌：0.87 児動物 P 雄：3.58 P 雌：4.76 F ₁ 雄：3.40 F ₁ 雌：4.22
					親動物 雄：体重増加抑制 雌：下垂体絶対及び比重量増加 児動物 雌雄：毒性所見なし (繁殖能に対する影響は認められない)
発生毒性		0、1、5、25	NOEL：5		母動物：1

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) ¹⁾			
			豪州	EU	食品安全委員会	参考 (農薬抄録)
	試験①		母動物：体重増加抑制等 胎児：発育遅延 (催奇形性は認められない)		胎児：1 母動物：体重増加抑制等 胎児：骨化遅延(頭頂間骨) (催奇形性は認められない)	胎児：5 母動物：体重増加抑制等 胎児：体重減少等
	発生毒性 試験②	0、3、10、30	NOEL： 母動物・胎児10 母動物：体重増加抑制 胎児：矮小児数の増加 (催奇形性は認められない)		母動物：3 胎児：10 母動物：体重増加抑制 胎児：低体重児数の増加 (催奇形性は認められない)	(催奇形性は認められない)
	90日間亜急性毒性試験①	0、1、5、20	NOEL：-		雌雄：1 雄：肝細胞脂肪変性等 雌：肝出血等	雌雄：1 雄：ChE 減少等 雌：卵巣絶対及び比重量減少
マウス	90日間亜急性毒性試験	0、2.5、5、10	-：詳細不明		雄：5 雌：10	雄：5 雌：10

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) ¹⁾			
			豪州	EU	食品安全委員会	参考 (農薬抄録)
ウサギ	②				雄：WBC 及び Neu 増加等 雌：毒性所見なし	雄：WBC 及び Neu 増加等 雌：毒性所見なし
	90 日間亜急性毒性試験 ③	0、0.35、0.5、0.7、1	NOEL：0.7 肝重量増加		雄：0.7 雌：0.5 雌雄：肝絶対及び比重量増加等	雌雄：0.7 雌雄：肝絶対及び比重量増加等
	2 年間慢性毒性/発がん性併合試験	0、5、20、80、200 ppm 雄：0、0.82、3.30、11.8、25.7 雌：0、0.91、3.66、13.0、29.0	NOEL：3.48 体重増加抑制、摂餌量及び飲水量減少 (発がん性は認められない)	NOAEL：3.3 体重増加抑制等 (発がん性は認められない)	雄：3.30 雌：3.66 雄：体重増加抑制等 雌：下垂絶対及び比重量増加等 (発がん性は認められない)	雄：3.30 雌：3.66 雄：体重増加抑制等 雌：飲水量減少等 (発がん性は認められない)
	発生毒性試験①	0、1、3、10	NOEL： 母動物 記載なし 胎児 - 母動物：体重増加抑制等 胎児：胸骨不完全骨化		母動物：1 胎児：3 母動物：体重増加抑制等 胎児：低体重等 (催奇形性は認められない)	
	発生毒性	0、1、3、5	NOEL：		母動物：3	母動物：3

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) ¹⁾			
			豪州	EU	食品安全委員会	参考 (農薬抄録)
	試験②		母動物 5 胎児 5 母動物：体重増加抑制等 胎児：体重減少及び頭 頭腎長減少等 (催奇形性は認められ ない)		胎児：3 母動物：体重増加抑制 傾向等 胎児：低体重及び頭 腎長減少 (催奇形性は認められ ない)	胎児：3 母動物：体重増加抑制等 胎児：体重減少、頭 腎長減少等 (催奇形性は認められ ない)
	発生毒性 試験③	0、1、3、10	NOEL： 母動物 3 胎児 10 母動物：体重増加抑制 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められ ない)	NOAEL： 母動物 3 胎児 10 母動物：体重増加抑制 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められ ない)	母動物：3 胎児：10 母動物：体重増加抑制等 胎児：毒性所見なし (催奇形性は認められ ない)	
		0、0.04、0.4、2.0	NOEL：0.04 肝細胞空胞化及び脂肪 沈着等	NOAEL：0.4 肝細胞空胞化及び脂肪 沈着等	雌雄：0.4 雌雄：肝細胞空胞化 及び門脈周囲の脂肪 変性等	雌雄：0.04 雌雄：肝細胞空胞化 及び脂肪沈着等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量(mg/kg 体重/日) ¹⁾		
			豪州	EU	食品安全委員会 参考 (農薬抄録)
	1年間 慢性毒性 試験	0、0.04、0.4、2.0			雌雄：0.4 雌雄：肝絶対及び比 重量増加等
	ADI				NOAEL：0.4 SF：100 ADI：0.004
ADI 設定根拠資料					イヌ 1年間慢性毒性 試験

注) NOAEL：無毒性量、NOEL：無影響量、SF：安全係数、ADI：許容一日摂取量、／：資料なし

1) 無毒性量には最小毒性量又は最小影響量で認められた所見の概要を示す。

ー：設定できず

表 41 単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重)	無毒性量及び急性参照用量設定に関連する エンドポイント ¹⁾ (mg/kg 体重)
ラット	急性毒性 試験-1	0、88、133、 167、200、300(雄 のみ)	雄：88 未満 雄：活動性亢進、流涙、鼻汁、痙攣及び眼出血
	急性毒性 試験-2	0、53、63、75、 90、108(雌のみ)	雌：53 未満 雌：腹ばい及び摂餌量減少
	急性毒性 試験-3	0、68.1、100、 147、215	雌雄：68.1 未満 雌雄：呼吸困難、鎮静、よろめき歩行、不全麻痺、攣縮、立毛、脱水症状、流涎、一般状態の悪化等
マウス	一般薬理試験 (中枢神経系)	0、10、30、100	雄：10 雄：反応性・反射の亢進、過敏等
	急性毒性 試験-1	0、39、59、88、 133、200(雄のみ)	雄：39 未満 雄：活動性亢進、流涙、鼻汁、痙攣及び眼出血
	急性毒性 試験-2	0、70、83、100、 120、140、170(雌 のみ)	雌：70 未満 雌：腹ばい
	急性毒性 試験-3	0、50、100、200	雌雄：50 未満 雌雄：呼吸困難、鎮静、異常姿勢、よろめき歩行、振戦、攣縮、立毛、一般状態の悪化等
ネコ	一般薬理試験 (呼吸・循環器 系)	100	雄：100 未満 雄：呼吸数減少、心電図 QRS 電位低下等
ウサギ	一般薬理試験 (中枢神経系)	0、10、30、100	雄：10 雄：体温低下、姿勢異常及び呼吸促進
ARfD			NOAEL : 10 SF : 100 ARfD : 0.1
ARfD 設定根拠資料			マウス及びウサギ一般薬理試験

ARfD : 急性参照用量 SF : 安全係数 NOAEL : 無毒性量

¹⁾ 最小毒性量で認められた主な毒性所見を記した。

＜別紙 1：代謝物/分解物略称＞

記号	略称	化学名
メチルイソチオ シアネート (親化合物)	MITC	methyl isothiocyanate
M01	MITC-S-グルタチオン 抱合体	
M02	MITC-S-システイン 抱合体	
M03	MITC メルカプツール酸	
M04	メチルチオカルバモイル- 生体高分子物質結合体	
M05	メチルアミン	methylamine
M06	<i>N,N'</i> -ジメチルチオ尿素	<i>N,N'</i> -dimethylthiourea
M07	ピルビン酸誘導体	3-methylthiocarbamoylsulfanyl-2-oxo- propionic acid

<別紙 2 : 検査値等略称>

略称	名称
ai	有効成分量(active ingredient)
Alb	アルブミン
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ [=グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ(GPT)]
ALP	アルカリホスファターゼ
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ [=グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ(GOT)]
BUN	血液尿素窒素
ChE	コリンエステラーゼ
C _{max}	最高濃度
CSF	脳脊髄液
Glob	グロブリン
Glu	グルコース(血糖)
HGPRT	ヒポキサンチン - グアニンホスホリボシルトランスフェラーゼ
HPLC	高速液体クロマトグラフ
LC ₅₀	半数致死濃度
LD ₅₀	半数致死量
Lym	リンパ球数
MCV	平均赤血球容積
NADPH	ニコチンアミドアデニンジヌクレオチドリン酸
Neu	好中球数
PHI	最終使用から収穫までの日数
PLT	血小板数
RBC	赤血球数
T _{1/2}	消失半減期
TAR	総投与(処理)放射能
TCA	トリクロロ酢酸
TLC	薄層クロマトグラフ
TLE	薄層電気泳動
T _{max}	最高濃度到達時間
TP	総蛋白質
UDS	不定期 DNA 合成
TRR	総残留放射能
WBC	白血球数

＜別紙３：作物残留試験成績＞

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	試験 ほ場数	使用量 (kg ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					MITC			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
やまのいも (露地) (塊茎) 昭和54年度	1	80	1	197	0.062	0.057	0.051	0.048
	1			243	<0.005	<0.005	<0.003	<0.003
こんにゃく (露地) (球茎) 昭和48, 49年度	1	80	1	178	<0.005	<0.005	0.006	0.006
	1			162	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004
だいこん (露地) (根部) 昭和47年度	1	80	1	86	<0.03	<0.03	<0.04	<0.04
	1			82	<0.03	<0.03	<0.04	<0.04
だいこん (露地) (葉部) 昭和47年度	1	80	1	86	<0.03	<0.03	<0.04	<0.04
	1			82	<0.03	<0.03	<0.04	<0.04
だいこん (露地) (根部) 昭和50年度	1	80	1	76	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
	1			81	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01
だいこん (露地) (葉部) 昭和50年度	1	80	1	76	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1			81	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
だいこん (露地) (根部) 平成17年度	1	80	1	69	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				76	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				83	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1			61	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
だいこん (露地) (葉部) 平成17年度	1	80	1	69	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				75	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				69	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1			75	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
だいこん (露地) (葉部) 平成17年度	1	80	1	69	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				76	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				83	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1			61	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
だいこん (露地) (つまみ菜・間 引き菜) 平成17年度	1	80	1	22			<0.01	<0.01
				28			<0.01	<0.01
				26			0.01	0.01
	1			34			<0.01	<0.01

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	試験 ほ場 数	使用量 (kg ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					MITC			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
かぶ (露地) (根部) 平成元年度	1	80	1	76	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			78	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
かぶ (露地) (葉部) 平成元年度	1	80	1	76	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			78	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
はくさい (露地) (茎葉) 平成11年度	1	80	1	108	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			90	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
キャベツ (露地) (葉球) 昭和58年度	1	80	1	176	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			86	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
ごぼう (露地) (根部) 平成17年度	1	80	1	191	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				198	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				205	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1			161	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				168	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				175	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
レタス (施設) (茎葉) 平成17年度	1	80	1	116	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				123	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				130	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
レタス (露地) (茎葉) 平成17年度	1			52	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				59	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				66	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ふき (施設) (可食部) 昭和62年度	1	80	1	140	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			155	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	試験 ほ場数	使用量 (kg ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					MITC			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
たまねぎ (露地) (鱗茎) 平成18年度	1	92.4	1	194	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				201	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				208	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		93.2		201	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				208	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				215	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1	80 (植付 14 日前土壌 注入)		185	<0.01	<0.01	0.01	0.01
				192	0.01	0.01	<0.01	<0.01
				199	<0.01	<0.01	0.01	0.01
		80 (植付 21 日前土壌 注入)		185	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				192	<0.01	<0.01	0.01	0.01
				199	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
ねぎ (露地) (茎葉) 平成2年度	1	80	1	182	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			146	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
ねぎ (露地) (茎葉) 平成15年度	1	80	1	113	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				120	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				127	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
にんにく (露地) (鱗茎) 平成元年度	1	80	1	292	0.031	0.030	0.036	0.034
	1			239	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
らっきょう (露地) (鱗茎) 昭和59年度	1	80	1	305	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			292	0.013	0.012	<0.005	<0.005
にんじん (露地) (根部) 昭和46年度	1	80	1	134	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	1			197	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	1	88.8		185	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
				166 233	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05	<0.05 <0.05
にんじん (露地) (根部) 昭和51年度	1	80	1	143	<0.005	<0.005	<0.003	<0.003
	1			147	<0.005	<0.005	<0.003	<0.003
トマト (露地) (果実) 昭和49年度	1	80	1	71	0.018	0.017	0.009	0.008
	1			84	<0.005	<0.005	0.006	0.006
				65	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004
				73	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	試験 ほ場数	使用量 (kg ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					MITC			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
ミニトマト (施設) (果実) 平成15年度	1	80	1	80	0.03	0.03	0.03	0.03
				87	<0.01	<0.01	0.01	0.01
				94	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1			98	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				105	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				112	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
なす (露地) (果実) 昭和49年度	1	80	1	54	0.012	0.012	0.011	0.011
				75	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004
	1			71	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004
				84	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004
きゅうり (施設) (果実) 昭和47年度	1	80	1	52	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
				77	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
きゅうり (露地) (果実) 昭和47年度	1	80	1	65	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
				76	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
				88	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
きゅうり (露地) (果実) 昭和50年度	1	80	1	54	0.005	0.005	0.005	0.005
				63	0.005	0.005	0.006	0.006
				75	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004
	1			67	<0.005	<0.005	0.005	0.005
				78	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004
				88	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004
すいか (施設) (果実) 昭和59年度	1	80	1	94	0.009	0.009	<0.005	<0.005
	1			114	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
メロン (施設) (果実) 昭和62年度	1	80	1	112	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	1			113	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
ほうれんそう (施設) (茎葉) 昭和62年度	1	80	1	89	0.020	0.018	0.036	0.033
	1			72	0.006	0.006	0.005	0.005
ほうれんそう (施設) (茎葉) 平成元年度	1	80	1	66			0.032	0.031
	1			57			0.015	0.015

作物名 (栽培形態) (分析部位) 実施年度	試験 ほ場 数	使用量 (kg ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)			
					MITC			
					公的分析機関		社内分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
しょうが (露地) (根茎) 平成16年度	1	80	1	159	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				166	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				173	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	1	80	1	228	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				235	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
				242	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
いちご (露地) (果実) 昭和48年度	1	80	1	206	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004
	1			237	<0.005	<0.005	<0.004	<0.004
茶# (露地) (あら茶) 昭和56年度	1	100	1	410			<0.005	<0.005
	1			423			<0.005	<0.005
茶# (浸出液) 昭和56年度	1	100	1	410			<0.084	<0.084
	1			423			<0.084	<0.084

注) 使用製剤：油剤（20%） #：参考

全てのデータが定量限界未満の場合は定量限界値の平均に<を付して記載した。

＜参照＞

- 1 食品、添加物の規格基準（昭和 34 年厚生省告示 370 号）の一部を改正する件（平成 17 年 11 月 29 日付け厚生労働省告示第 499 号）
- 2 農薬抄録 メチルイソチオシアネート（殺センチュウ及び殺菌剤）（平成 24 年 9 月 28 日改訂）：バイエルクロップサイエンス株式会社、一部公表
- 3 食品健康影響評価について（平成 25 年 6 月 11 日付け厚生労働省発食安 0611 第 15 号）
- 4 豪州②: Metham Sodium, Dazomet and Methylothiocyanate (MITC). Volume II. NRA Special Review Series 97.2 (1997)
- 5 豪州④: Metham Sodium, Dazomet and Methylothiocyanate (MITC). Volume III. NRA Special Review Series 97.2 (1997)
- 6 EFSA: Conclusion on the peer review of the pesticide risk assessment of the active substance metham. European Food Safety Authority (2011)
- 7 農薬抄録 ダゾメット（殺菌剤）（平成 24 年 8 月 27 日改訂）：アグロカネショウ株式会社、一部公表
- 8 農薬抄録 カーバムナトリウム塩（殺土壌病害、殺線虫、殺虫、除草、古株枯死剤）（平成 25 年 2 月 4 日改訂）：三菱商事株式会社、一部公表
- 9 農薬抄録 カーバム（殺虫剤）（平成 24 年 6 月 29 日改訂）：ダウ・ケミカル日本株式会社、一部公表
- 10 食品健康影響評価の結果の通知について（平成 27 年 3 月 24 日付け府食第 239 号）
- 11 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）の一部を改正する件（平成 29 年 7 月 18 日付け厚生労働省告示第 249 号）
- 12 食品健康影響評価の結果の通知について（令和元年 8 月 27 日付け府食第 273 号）
- 13 食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示 370 号）の一部を改正する件（令和 2 年 7 月 14 日付け令和 2 年厚生労働省告示第 262 号）
- 14 食品健康影響評価について（令和 5 年 11 月 21 日付け厚生労働省発健生 1121 第 5 号）
- 15 農薬抄録 メチルイソチオシアネート（殺センチュウ及び殺菌剤）（令和 4 年 12 月 19 日改訂）：バイエルクロップサイエンス株式会社、一部公表
- 16 Technical Methylothiocyanate Irritant Effects on Rabbit Skin（GLP 対応）：Huntingdon Research Centre Ltd.（英国）、1986 年、未公表